

【高等学校用】

令和7年度学校評価 計画

様式1(高等学校)

達成度(評価)
A:十分達成できている C:やや不十分である
B:おおむね達成できている D:不十分である

学校名	佐賀県立佐賀北高等学校通信制
1 前年度	・学校生活を充実させ単位修得の向上につなげることができている。 ・生徒の進路を意識させるとともに進路実現に努める。 ・多様性を認め他者への尊重と他者との協力はできている。スクーリング時の挨拶運動は続けていきたい。
2 SAGASCHOOL・MISSION 学校教育目標	県内唯一の公立通信制高校として、生徒一人一人の可能性に応じた学びの場を提供し、各自が身に付けた体験や経験を、将来の自分の在り方・生き方に活用できる生徒を育成する。
4 本年度の重点目標	・主体的な学びにより学力向上を図り、単位の修得、高校卒業につなげる。 ・生徒の希望進路を把握し、情報を提供しながらより良い進路実現に努める。 ・多様性を認め自分も人も大切にする心や協調性を養い、社会的自立と将来の社会の形成者としての自覚を促す。 ・働き方改革を推進し、働きやすい職場環境を整える。

	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
3 スクール・ポリシー	・「高校卒業資格を得たい」という強い意志を持った生徒を求めます。 ・失敗を恐れず挑戦することや最後まであきらめず努力する意気込みのある生徒を求めます。 ・自由と責任を両立させ、目標に向かって主体的に取り組む意欲のある生徒を求めます。	・基礎・基本を大切にするとともに、多様な教科を開設する単位制のメリットを生かして、個別最適な学びを実現します。 ・キャリア教育を推進し、生徒それぞれの希望・能力・適性に合った進路実現を支援します。 ・外部講師による講話など、多様な価値観に触れる活動を実施・奨励します。 ・教科指導や部活動、学校行事などを通して、命を大切にする心、寛容性、協調性を養います。	・学んだことを生かして、豊かな人生を切り拓くとともに、より良い社会の形成者として、調和と協調に基づくウェルビーイング（自己と地域の幸福）の実現に貢献する人材を育成します。 ・持続可能な社会の実現に向け、身につけた知識や経験をもとにした柔軟な対応力と諦めず粘り強く取り組む姿勢を育成します。 ・他者を理解し尊重する気持ちを持ち、自己も他者も生かすことができる豊かな人間関係を築く力を育みます。

5 重点取組内容・成果指標				中間評価		最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○進学学習会や就職対策の強化	○進学学習会の出席率60%以上、就職対策講座を開講して充実させ、出席率60%以上。		・「樟蔭」やスクーリング連絡、進路説明会等を通して、学習会や就職対策講座の広報活動を行う。 ・キャリア教育講演会による、進路意識の向上を図る。						学習指導 進路指導
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○スクーリングには楽しく参加できていると答えた生徒が80%以上 ○挨拶や服装に気を遣っていると答えた生徒が70%以上		・生徒会による朝の挨拶運動を実施し、服装について高校生としてのモラル意識の向上を推進する。 ・学校生活については、自ら学び、意欲的に行動できる生徒の育成を推進する。						保健・教育相談 生徒指導
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの重大案件数を0件とする。 ○学校は、いじめの早期発見、早期対応体制の充実に取り組んでいると答えた生徒が70%以上		・いじめアンケートの実施(前期1回、後期1回) ・HRや学校行事等でいじめ撲滅について啓発活動を行い、生徒間の意識の共有を図る。						生徒指導 保健・教育相談
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と答えたが生徒70%以上 ★郷土の人材を活用した講演会を年1回実施		・今年度は6月下旬に講演会を実施予定。生徒に早めに広報し、「佐賀語り」を利用し事前の学習を呼びかける。						
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●交通ルールを守ることができたと答えた生徒が90%以上		・生徒指導講話での交通安全意識啓発。 ・許可申請による自家用車登校生徒の把握。 ・HR時の呼びかけによる安全意識の向上。						保健・教育相談
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上		・定時退勤日の設定 ・ICTの活用による業務の効率化 ・スクーリングの振替日の弾力化 ・学校閉庁日、年休取得推進期間の設定						管理職
●特別支援教育の充実	○生徒の状況に応じた支援・配慮を実践する	○(学校独自成果指標・任意)		・						保健・教育相談
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★単位修得率の向上	○前年度の単位修得率87%(4年90%、3年90%、2年86%、1年82%)の維持・向上		・スクーリングへの参加を呼び掛ける ・「学習のしおり」、「樟蔭」、「はなまる連絡帳」の有効活用 ・ホームルームへの参加を促し、学習状況を連絡する						教務 学習指導

●……県共通 ○……学校独自 ◎……志と誇りを高める教育 ★……唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・ 次年度への展望 (簡潔に)	・ ・ ・
--------------------------	--